

第8次安城市総合計画

後期計画

令和2年度（2020年度）～令和5年度（2023年度）



幸せつながる 安城
健幸都市

概要版

令和2年3月

安城市

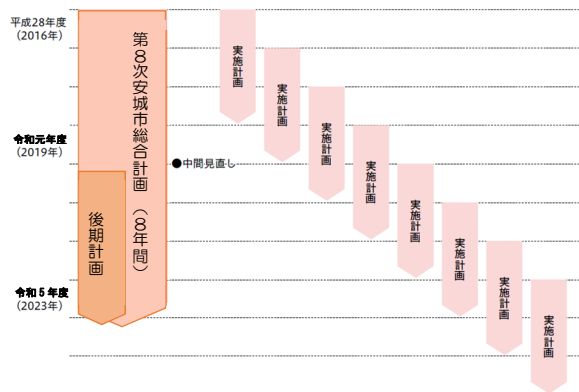
第8次安城市総合計画の策定にあたって

■ 位置付け

第8次安城市総合計画（後期計画）（以下、「総合計画」という。）は、自治体経営の最上位に位置付けられる計画であり、健康や福祉、都市計画、教育、産業など、行政が携わる全分野の主要な施策の中長期的な方針を示すものです。既成の制度に基づき継続的に実施する施策及び実施手段としての事業に関する記述は、原則として関連する個別計画に委ねています。各分野で新たに策定する個別計画は、総合計画に記した方針に沿って検討します。

■ 期間

第8次安城市総合計画の全期間は、平成28年度（2016年度）から令和5年度（2023年度）までの8年間です。後期計画の期間は、令和2年度（2020年度）から令和5年度（2023年度）までの4年間です。これとは別に、総合計画に示した施策の実現にあたり、3年間で取り組む具体的な事業を記載した実施計画を毎年策定します。



■ 特徴

第1項 策定の視点

（1）協働の視点

まちづくりは市民や町内会、NPO、ボランティア、各種団体、企業、行政など、様々な主体が協働により取り組むものです。そこで、総合計画では、地域における課題の発見や解決に寄与する行政活動を取り上げ、協働によるまちづくりを促す仕組みや仕掛けについて記載します。

（2）横断的視点

行政が取り組む施策は、当該分野の政策課題を解決するだけでなく、他の分野にも効果をもたらすことが少なくありません。例えば、公共交通は、交通弱者の移動利便性を高めることはもちろん、自家用車の利用を減らし温室効果ガスの排出削減につながると考えられます。各施策がもたらす様々な効果を総合計画に示すことで、その有効性を共有します。

（3）未来的視点

社会情勢の変化として、情報通信技術など Society5.0 の実現に向けた技術（未来技術）の進歩や持続可能な開発目標（SDGs）の理念（「誰一人取り残さない」社会の実現）の推進などがあります。未来技術は、少子高齢化・人口減少の課題の最前線にある地方においてこそ、ピンチをチャンスに変える力を持っています。SDGs は、民間企業、金融機関などとの連携を促進することで地域における「自律的好循環」を形成し、地方創生と持続可能なまちづくりの実現を目指すものです。このような未来的視点を総合計画に取り入れていきます。

第2項 総合計画の役割

（1）戦略型の計画

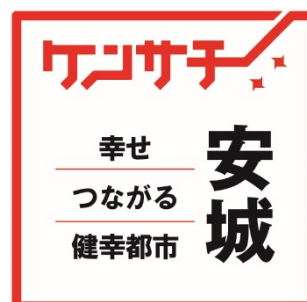
各項目の「施策が目指す姿」を実現するうえでの課題の解決や設定した成果指標の達成に大きく貢献する施策を絞り込み、本市が今後どのような取組を行うのかをわかりやすく示す戦略的な計画です。総合計画に記載される施策は、本市が今後重点的に実施するものであり、優先的に推進します。

（2）実効性

各項目に成果指標を設定し、計画期間における目標の達成を目指します。
成果指標の達成に資する各施策は実施主体となる市の組織が決まっており、進捗状況の管理を行いながら施策に取り組めます。

（3）個別計画との整合性

総合計画は、各分野の中長期的な視点による施策の方針までを記載しています。各項目に記載した関連する個別計画を見ることで、具体的な取組について把握することができるようになっています。



目標人口と土地利用の方針

■ 目標人口

- ・「第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、本市の人口の将来展望は、令和32年（2050年）の19万7千人余をピークとしており、総合計画の期間は、ゆるやかな増加が継続する見込みです。
- ・一方、急速な少子高齢化により令和7年（2025年）には高齢化率は21%を超え、超高齢社会となります。また、生産年齢人口は、令和7年（2025年）がピークになる見通しにあります。よって、総合計画は、今後加速する少子高齢社会、さらには、来たるべき人口減少社会に対応するための準備期間として必要な政策を精査し、戦略的に進めていくことが重要となります。

土地利用の方針

■ 4つの拠点を核とした市街地形成

(1) 安城駅都市拠点

土地区画整理事業や公共空間の利活用などにより、土地の高度利用、都市機能の再編を図り、本市の商業・オフィスの中心にふさわしい魅力と活力にあふれた拠点形成を進めます。

(2) 三河安城駅広域拠点

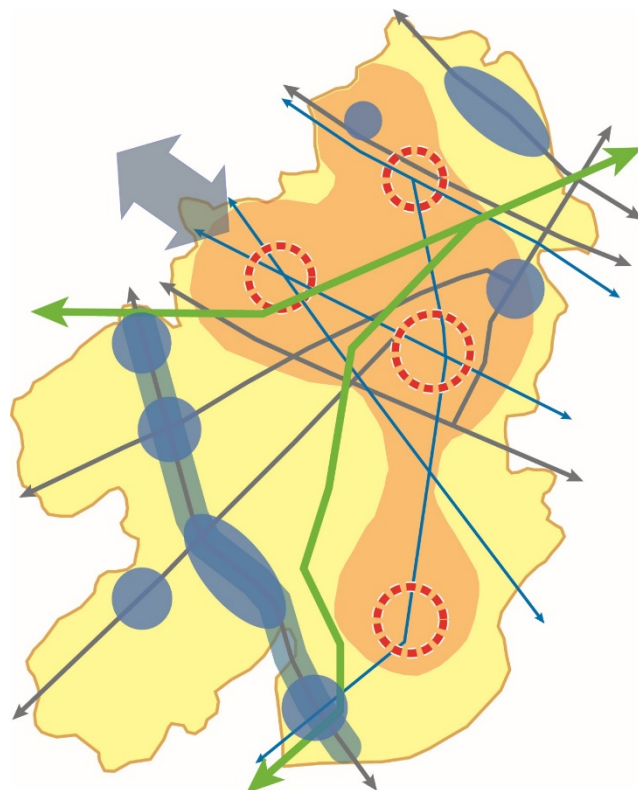
交通の要衝として、公共的空間を積極活用した高品位なまちづくりにより都市機能の集積を促し、西三河における広域的な役割を担う拠点形成を進めます。

(3) 新安城駅地域拠点

既存の都市機能を高め、北部地域の生活圏の中心となる個性と魅力にあふれた拠点形成を進めます。

(4) 桜井駅地域拠点

土地区画整理事業により、商業系・住居系の都市機能の集積を図り、南部地域の生活圏の中心となる拠点形成を進めます。



<凡例>

- | | |
|------------|-------------|
| 拠点 | 産業ゾーン |
| 明治用水緑道 | 市街地環境整備ゾーン |
| 鉄道 | 農業集落地域整備ゾーン |
| 国道・主な主要地方道 | 名古屋との連携 |
| 産業軸 | |

名古屋との連携強化

リニア中央新幹線の開業を控え、高次都市機能の集積やさらなるグローバル展開により拠点性の向上が予想される名古屋大都市圏の発展の受け皿を確保します。そこで、名古屋と安城を結ぶ鉄道及び道路アクセスの強化、企業立地及び定住人口の確保に向けた基盤整備を推進します。

優良農地の保全

優れた田園地帯を構成する農地については、無秩序な開発を抑制し保全を図り、農業先進都市として発展をしてきた歴史風景を次世代へ引き継ぎます。また、農業経営基盤の一層の強化を図るため、農地のさらなる集約化を推進します。

健康づくりの支援

市民の健康づくりを支援するために、中心市街地拠点施設「アンフォーレ」や広域的な公園などを核として自転車ネットワークなどで結びます。

新たな発展に向けた工業用地の計画的誘導

恵まれた地理的条件や交通体系を活用し、新たな都市の活力を生み出す工業用地の確保を進めるため、国道23号沿線を産業軸として位置付け、周辺土地利用との調和を図った計画的整備を誘導します。

基本理念と目指す都市像

■ 基本理念

市民一人ひとりが 生活の豊かさとともに 幸せを実感できるまち

本市は、安定した雇用や労働環境に恵まれ、全国的に見ても豊かで安定した財政力を誇り、都市と田園のバランスが取れた快適なまちです。こうした恵まれた条件により、合計特殊出生率は全国平均を大きく上回り、市外からの転入人口も多く、将来人口の推計では令和12年（2030年）まで人口は減少しない見通しとなっています。

その一方、高齢化の波は本市にも着実に影を落としており、今後、多くの市民が老後の生活を豊かなものにするためには、健康寿命の延伸が不可欠です。さらに、医療・福祉に関する経費ができる限り本市の財政を圧迫しないように、今のうちから市民の健康づくりに力を入れていく必要があります。

また、近年の日本経済の動向は国民の実感を伴わないものになりつつありますが、経済的な余裕だけでなく、心のゆとり、日常の楽しみ、社会への貢献、人とのふれあい、将来に対する安心など、人々が「豊かさ」や「幸せ」を感じる要因は多種多様な広がりを見せています。この「豊かさ」や「幸せ」を市民一人ひとりが実感できるようにすることが、成熟社会を迎えた日本において、自治体行政が担うべき最大の役割の一つと考えます。総合計画では、「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち」の形成をまちづくりの基本理念と位置付けます。

■ “豊かさ” とともに “幸せ” を実感できる 5 つの要素

「豊かさ」や「幸せ」を感じるために重要視されている事柄については、人それぞれに異なりますし、人生における様々な過程においても変化することが、年代別の調査結果にもあらわれています。しかしながら、事柄そのものについては、国や本市の調査結果のみならず、他の自治体においても、概ね同様の要因が確認されています。

そこで、市民に最も身近な基礎自治体として、「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち」の実現に向け、「豊かさ」や「幸せ」を感じるために重要視されている事柄の中から、特に関連性が高い、「健康」「環境」「経済」「きずな」「こども」という5つのキーワードの頭文字をとった「5K」について、「豊かさ」や「幸せ」を実感できる構成要素として設定します。

健康:Kenko

環境:Kankyo

経済:Keizai

きずな:Kizuna

こども:Kodomo

■ 目指す都市像

総合計画では、5つの要素のうち「健康」を軸に据え、「健幸」のまちづくりを推進していきます。

「健幸」とは市民一人ひとりが身体的・精神的に健康であることに加えて、趣味や社会貢献などの様々な活動を通じ、日々の生活に「生きがい」や「感動」を見出し、生きていることの喜びを実感することです。

自分が健康でありたい。そして、家族も健康であって欲しい。この率直な願いが、自分や家族の「幸せ」につながると気付いた瞬間に、人々は意識や行動を変えるための一歩を踏み出すことができるでしょう。

「健幸」の意識が、家族や友人、職場や地域社会に広くつながり、「幸せ」を分かち合うことへと発展することが「健幸都市」の姿です。

安城市は、すべての施策分野に「健康」の視点を取り入れるとともに、「環境」への取組を継続し、活力ある「経済」を生かし、伝統的な地域の「きずな」を継承し、社会全体で「こども」を育むまちづくりを進めることにより、「幸せつながる健幸都市 安城」の実現を目指します。

持続可能な開発目標(SDGs)

■ SDGs とは

SDGs は、「Sustainable Development Goals」の略で、平成 27 年（2015 年）9 月の国連総会において全会一致で採択された令和 12 年（2030 年）までの長期的な開発の指針「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核をなすもので、「誰一人取り残さない」というコンセプトを分野別の目標としてまとめた「持続可能な開発目標」であり、国際社会共通の目標です。

SDGs は、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 の目標及び細分化された 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、環境・経済・社会の諸課題を包括的に扱い、広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。

アイコン	目標	アイコン	目標
	貧困をなくそう		飢餓をゼロに
	すべての人に健康と福祉を		質の高い教育をみんなに
	ジェンダー平等を実現しよう		安全な水とトイレを世界中に
	エネルギーをみんなに そしてクリーンに		働きがいも経済成長も
	産業と技術革新の基盤をつくろう		人や国の不平等をなくそう
	住み続けられるまちづくりを		つくる責任つかう責任
	気候変動に具体的な対策を		海の豊かさを守ろう
	陸の豊かさを守ろう		平和と公正をすべての人に
	パートナーシップで目標を達成しよう		

■ 総合計画における SDGs の位置付け

総合計画では、基本計画として、本市のまちづくりにおける「豊かさ」と「幸せ」を求める取組を、「健康：Kenko」、「環境：Kankyo」、「経済：Keizai」、「きずな：Kizuna」、「こども：Kodomo」の 5 つの要素から形成される 18 項目に分類し、それぞれの取組の方向性を示しています。

これらの総合計画で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標である SDGs の目指す 17 の目標とスケールは違うものの、その目指すべき方向性は同様であることから、総合計画の推進を図ることで SDGs の目標達成にも資するものと考えます。

重点戦略「健幸都市推進プロジェクト」

■ 健幸都市推進プロジェクトの体系

健幸プロジェクト1 ひとづくり

～健康で幸せに暮らし続ける～

目指す方向

健康であり、幸せでありたい。これはすべての市民に共通した基本的な願いであると考えます。乳幼児期、学童期、青年期、壮年期、老年期など、すべてのライフステージとその変化に応じた適切な環境づくりを支援することにより、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会の実現を推進し、市民が健康で幸せに暮らし続けることのできる社会の形成を目指します。



具体的な取組

基本的方向1 生涯にわたり健康で幸せに暮らし続ける環境づくり

健康に関する活動に「参加したくなる機会」の充実、「地域で支える健幸づくり」の仕組みを構築するとともに、スポーツを通じた地域活性化などにより、生涯にわたり健康で幸せに暮らし続ける環境づくりを進めます。

基本的方向2 安心して子どもを生み育てられる環境づくり

低年齢児の保育需要増加や多様な保育ニーズへの対応、就労など自立に向けた支援などにより、結婚や出産の希望がかない、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進めます。

基本的方向3 次世代を担う子どもの教育環境づくり

教員が児童生徒一人ひとりに向き合える時間や機会の拡大を図ることや、グローバル化する社会や Society5.0 社会の到来を見据えた人材育成、子どもの読書推進などにより、次世代を担う子どもの教育環境づくりを進めます。

基本的方向4 社会の担い手となるひとを増やす環境づくり

子育て世代が安心して社会進出できる社会を構築するとともに、若者の社会進出の促進、誰もが活躍できる地域社会の実現などにより、社会の担い手となるひとを増やす環境づくりを進めます。

健幸プロジェクト2 しごとづくり

～新しい時代の流れを力にし、安定した雇用を維持する～

目指す方向

本市の特徴である農業・商業・工業のバランスのとれた産業基盤を維持しつつ、これらの産業で新技術の導入を促すような支援、また、創業支援を通じイノベーションを促進することにより、本市の安定した雇用の維持を目指します。



具体的な取組

基本的方向1 ものづくり産業を中心とする地域の産業の振興

地元企業の競争力の強化、ものづくり産業を支える人材の発掘・育成、新たな企業の誘致と既存企業の流出抑制などにより、ものづくり産業を中心とする地元産業の振興を図ります。

基本的方向2 新規産業の創出

創業の促進、民間投資の促進や、誰もが活躍しやすい環境づくりを進めることなどにより、新規産業の創出を図ります。

基本的方向3 農業の育成・振興

地域農業の中心的な担い手を育成すること、果樹生産などの振興や農産物の消費拡大の推進、また、農業経営の効率化や生産性の向上、農業の持続的な発展を推進することなどにより、農業の育成・振興を図ります。

基本的方向4 観光と連携した商業の振興

商店の経営基盤の強化の推進、まちなみの賑わいの創出、観光客の誘致などを推進し、観光と連携した商業の振興を図ります。

健幸プロジェクト3 まちづくり

～みんなでつくる住みたい、住みつけたいまち～

目指す方向

まちづくりを市民とともに行うことで、市民のニーズにあった住みやすいまちづくりを進めるとともに、市民のまちに対する愛着や誇りを醸成し、市民にとって住みつけたいまちとなることを目指します。



具体的な取組

基本的方向1 市民とともにつくる持続可能なまち

地域のコミュニケーションの醸成の推進、地域の活性化や都市景観の向上、また、地域の課題を自ら解決することができる体制や多様な主体がまちづくりに参加できる体制を強化することなどにより、市民とともに持続可能なまちをつくりまします。

基本的方向2 良好な住宅地の供給

転出者の抑制と転入者の受け皿の確保、土地の有効活用・高度利用の促進、滞留できる憩いの空間の創出によるまちの魅力の向上、強靱かつ持続可能な都市の実現を図ることなどにより、良好な住宅地を供給していきます。

基本的方向3 まちへの愛着・誇りの醸成と豊かで暮らしやすい生活の実現

市民に本市の魅力を再認識してもらうこと、市民の積極的なまちづくりへの関与を推進すること、また、安全で快適な生活環境を整備することなどにより、市民のまちへの愛着・誇りを醸成し、豊かで暮らしやすい生活を実現します。

分野別計画

健康

生涯にわたり心身ともに健康に過ごせるまち

1 健康・医療



施策が目指す姿

地域全体で健康への意識が高まり、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組める環境整備を進めることにより、市民の健康寿命の延伸を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
健康であると感じている人の割合	70.7% (2012年度)	75%
1日に30分以上歩く人の割合	49.8%	54%
BMIが標準の人の割合	68.5% (2014年度)	73%

2 スポーツ



施策が目指す姿

「する」・「みる」・「おしえる」・「ささえる」の様々な立場からスポーツに親しみ関わるができる環境の充実を図り、スポーツを通じて健康で活力あるくらしができるまちを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
成人の週1回以上のスポーツ実施率	45.1%	52%
市主催スポーツ事業参加者数(単年度)	87,672人 (2014年度)	115,000人
市スポーツ施設利用者数(単年度)	1,137,343人 (2014年度)	1,500,000人

環境

くらしの質を高める持続可能なまち

3 環境



施策が目指す姿

市民一人ひとりが、低炭素化・自然との共生・資源循環など環境に対する高い意識を学びや協働を通じて育むとともに、それぞれの立場で環境配慮行動に積極的に取り組むことにより、環境負荷の少ない、人と自然が共生する良好な環境が持続的に発展する社会を目指します。

成果指標

指 標	見直し時の値(2018年度)	目標値(2023年度)
固定価格買取制度における市内の再生可能エネルギー発電容量(kw)	48,939 kW	66,000 kW
1人1日あたりのごみ排出量(g)	915 g	890 g

4 都市基盤(住環境)



施策が目指す姿

市民に愛される公園整備を通じ、自然と人がふれあうまちづくりを目指します。良好な水環境による安全で快適な暮らしの実現を目指します。暮らしやすさを実感し、安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
住環境に対する満足度	32%	40%
公園の更新数(累計)	—	長寿命化29箇所 リニューアル7箇所
適切に管理されていない戸建住宅の空き家件数(累計)	82件 (2014年度)	80件

5 生活安全



施策が目指す姿

市民・行政が一体となり、犯罪や交通事故の発生件数を減少するための取組をし、安全で安心なまちづくりを目指します。消費者トラブルからの早期救済・未然防止を図り、安心な消費生活の実現を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
犯罪発生件数(単年)	1,717件	1,540件
人身事故発生件数(単年)	1,069件	960件
消費生活における問題を相談できる体制が整っていると思う人の割合	14.5%	50%

6 都市基盤(交通)



施策が目指す姿

市民の移動手段として健康的で環境にやさしい鉄道、バス、自転車などの様々な有機的なネットワークの形成を目指します。渋滞がなく、円滑な移動に必要な道路網の充実を目指します。

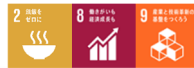
成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
公共交通機関に対する満足度	49.4%	58%
都市計画道路整備率	81.4% (2014年度)	85.4%
公共交通機関利用率	9.7% (2011年度)	11%

経済

地域の魅力、潤いと活力あふれるまち

7 農業



施策が目指す姿

安全・安心な食料が安定的に供給されるよう農地や農業用施設の整備並びに保全を図るとともに、効率的かつ安定的に経営できる農業経営者を育成することにより、農業の持続的発展を目指します。地産地消や食育の推進、農との触れ合いにより、市民一人ひとりが生涯にわたり、心身ともに健やかな生活を送ることを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
農地の利用権などの設定率	52% (2014年度)	66%
地元農産物を意識して購入する人の割合	21.9% (2014年度)	26%

8 商工業



施策が目指す姿

ものづくり産業の高度化と新規産業の創出、魅力ある商業集積の形成など、商工業バランスのとれた発展を図ることにより、市内経済の活性化と豊かで潤いのあふれる市民生活の実現を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
都市計画法における地区計画(工業団地)の面積	49.8h (2014年度)	69.8ha
中心市街地歩行者通行量(平日)	3,366人 (2014年度)	4,100人
創業者数(単年度)	81人 (2013年度)	190人

9 観光



施策が目指す姿

観光資源を最大限活用し、本市の魅力を上昇させるとともに、四季折々の観光情報を発信することにより観光入込客数の増加を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
観光施設やイベントにおける観光入込客数(単年度)	227万人 (2014年度)	300万人

10 都市基盤(市街地)



施策が目指す姿

JR安城駅周辺を都市拠点、JR三河安城駅周辺を広域拠点、名鉄新安城駅周辺・名鉄桜井駅周辺を地域拠点とし、各地区の特性に応じた個性的な魅力ある拠点の形成を目指します。各拠点を中心とした都市基盤整備により、人々が集い交流するコンパクトシティ型都市構造の形成を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
中心市街地拠点施設「アンフォーレ」入館者数(単年度)	—	100万人
市街化区域内における土地地区画整理事業による整備率	47.7% (2014年度)	50.3%
DID区域内人口(累計)	119,934人 (2010年度)	130,000人

けんさち

幸せ
つながる
健幸都市

安城

11 防災・減災



施策が目指す姿

市民の生命や財産を守るため、地震や風水害など様々な自然災害や致死性の高い感染症の発生に備え、自助力・共助力・公助力を向上させ、総合防災力の強化による安全安心なまちづくりを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
防災・減災対策に対する満足度	53.3%	60%
住宅の耐震化率	83% (2014年度)	95%
雨水貯留施設の貯水容量(累計)	37,078 m ³ (2014年度)	87,200 m ³
水道管の耐震化率	33% (2018年度)	39%

12 地域福祉



施策が目指す姿

町内福祉委員会などによる地域住民主体の助け合い活動を市内全域に広げ、医療・介護・福祉などの専門職が連携してサポートする「安城市版地域包括ケアシステム」を構築することにより、住み慣れた地域でいつまでも安心して、健康で自立した生活を送ることができるまちを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
地域見守り活動の実施町内福祉委員会数(累計)	48委員会 (2014年度)	全町内福祉委員会
地域包括支援センターの設置数(累計)	— 地域2箇所 (2014年度)	基幹1箇所 地域8箇所
地域ケア個別会議の開催回数(単年度)	26回 (2014年度)	240回

13 社会保障



施策が目指す姿

社会保険及び社会福祉の各分野別計画を策定して、調和の取れた社会保障制度を構築することにより、すべての市民が健康で文化的な生活を、生涯にわたって生きがいを持って営めるまちを目指します。※公衆衛生については「健康・医療」の分野に、社会福祉の児童福祉については「子育て」の分野に記載されています。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
障害者への福祉が充実と感じている人の割合	30.2%	35%
地域生活支援拠点等の設置数(累計)	—	1箇所
住民主体の生活支援サービス実施団体数及びサロン等の通いの場数(累計)	生活支援サービス実施団体数 5 通いの場数 144 (2018年度)	生活支援サービス実施団体数 10 通いの場数 154

14 生涯学習



施策が目指す姿

市民のだれもが、いつでもどこでも生涯を通じて、自分らしく主体的に生涯学習に関わることができ、人や地域との絆を深めるとともに、新たな価値観や行動を生み出し、人とまちの明日を創る生涯学習環境を目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
生涯学習に対する満足度	53.8%	62%
生涯学習講座・教室の受講者数(単年度)	12,224人 (2013年度)	14,800人
市民一人あたりの図書年間貸出冊数(単年度)	10.1冊 (2014年度)	12冊
図書館等の実利用者数(単年度)	30,392人 (2014年度)	36,000人

15 文化・芸術



施策が目指す姿

歴史資源の保存と有効な活用や普及啓発活動を通じて、歴史に根ざしたまちづくりを推進することで、市民に憩いの場と歴史に触れる機会を提供し、郷土愛の醸成を目指します。文化芸術団体が創造豊かな活動を展開し、優れた芸術鑑賞の機会を充実することにより、広く市民が文化芸術活動に親しめる環境づくりを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
歴史・文化に愛着や誇りを感じる人の割合	38.3%	46%
文化財関係事業参加者数及び歴史博物館入館者数(単年度)	64,201人 (2014年度)	70,000人
文化芸術関係事業参加者数及び市民ギャラリー入館者数(単年度)	74,699人 (2014年度)	88,000人

16 参加と協働



施策が目指す姿

ボランティア活動などの社会貢献と健康長寿には深い関係性があると考えられます。市民が心身ともに幸せに暮らし続けることができるように、地域コミュニティの活性化を図るとともに、情報の共有が確立された協働によるまちづくりを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
市民参加・市民活動支援に対する満足度	25.9%	38%
コミュニティ活動推進施策に対する満足度	41.1%	47%
市民活動センター登録団体数(単年度)	327団体	430団体

こども 子どもたちを社会で豊かに育むまち

17 子育て



施策が目指す姿

安心して妊娠・出産を迎えることができ、子育ての主役である保護者が喜びと安心の中で子育てができるよう、地域社会で子どもの健やかな成長を見守り、子育てを担う保護者を支えることのできるまちづくりを目指します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
児童クラブの学年拡大	小学1～3年生 21校	小学1～6年生 21校
ひとり親家庭福祉に対する満足度	28%	32%

18 学校教育



施策が目指す姿

自ら学び自ら考え、自ら判断し行動する力を育てる質の高い教育活動により、次世代を担う児童生徒の知・徳・体の調和のとれた人づくりを目指します。児童生徒一人ひとりを大切にしたきめ細やかな教育の体制づくりを進め、安全安心で快適な教育環境を創出します。

成果指標

指 標	策定時の値(2015年度)	目標値(2023年度)
授業は楽しくわかりやすいと答える児童生徒の割合	各学校80%以上 (2014年度)	各学校90%以上
タブレット端末などICT(情報通信技術)機器の学び合いでの活用状況	—	1学級あたり 10回/月

幸せつながる健幸都市

第8次安城市総合計画 後期計画

令和2年3月

【発行】 安城市

【編集】 安城市 企画部 企画情報課

〒446-8501 愛知県安城市桜町 18 番 23 号

TEL 0566-76-1111(代表) FAX 0566-76-1112

URL <https://www.city.anjo.aichi.jp/>